

まちかどトーク（下関地区）議事要旨

日時：令和8年3月23日（月）19:00～20:35

場所：下関公民館

参加者：37人

1 市長あいさつ

2 市政に関する説明

「災害時要支援者の防災」について社会福祉課から説明の後、質疑応答

参加者

日中一人で過ごす高齢者や夜間の災害時において、情報を受けた後、具体的な行動など一連のスキームが見えるようにしてほしい。

社会福祉課

来年度、デジタル技術も活用しながら、具体的にマニュアル化する取組を始める。
基本的には要支援者1名に対して1名以上の支援員が付く。災害時は支援員も支援者も避難することが最優先である。支援者が避難所にいった後に電話で安否確認を行うか、近所の場合は声をかけて一緒に避難する形が一番良いと考えている。

市長

災害時に、寝たきりなど外出が困難な人をどう支援するか、いざという時にどう行動すべきかを市民に提示できるようにしておくべき。

社会福祉課

個別避難計画の中に避難の流れ等を記載し、その内容を踏まえて要支援員と支援者が日頃から災害時の対応を話し合うことが大事だと考えている。計画作成は災害ありきではなく、日頃から連携方法を見つめなおし、信頼関係を作るためのきっかけにしてほしい。

参加者

デジタルも活用したマニュアル化との発言があったが、高齢者は携帯電話を持っていても日頃使っておらず、災害情報が届かない。能登半島地震の際は市から連合自治会や自主防災組織へ連絡がなく、避難所の開設情報などはテレビで確認した。

民生委員のなり手がいない。下関地区では民生委員13人でひとり暮らし高齢者160人をフォローしている。日中独り暮らしの高齢者は、個別避難計画の対象外だが、災害時は民生委員が善意でフォローしてくれると思う。

災害時、福祉避難所は、開設準備が整わない場合は受入れを断ってもいいと聞いた。能登半島地震の際は福祉避難所に避難する動きがあり、開設しない福祉施設が非難されたため、開設基準を見直してほしい。

個別避難計画を誰が作成するのか具体的に示し、福祉関係者が職務として作成する体制は構築できないか。

社会福祉課

災害情報を固定電話に通知するサービスや65歳以上の高齢者世帯が災害情報や避難情

報の配信を受け取れる「マゴコロボタン」の貸与など、デジタル機器が苦手な方への情報発信も行っているが、さらなるPRが必要である。

福祉避難所は、避難所に行けない人が個別避難計画を作成し、個別に福祉避難所と契約を結ぶイメージである。個別避難計画の作成が進めば、福祉避難所のニーズも把握できる。

個別避難計画の作成を進めるため、地域包括支援センター、障害福祉事業所、居宅支援事業、社会福祉協議会に計画を作成いただき、市が費用を支払う契約を行っている。

参加者

地区社会福祉協議会では、市と社会福祉協議会が契約していることを知らなかった。様々な災害があるが、全てひとまとめに「避難」と言われており、災害別の具体的な対応を示してほしい。

参加者

1名の要支援者に対して2名の支援者を設けるのは難しい。支援者が見つからない場合、町内会長に対応を求められることになる。役員も担い手不足であり、地域が取組やすくなるよう後押ししてほしい。独り暮らし高齢者は民生委員とのかかわりを拒否するケースもある。

社会福祉課

支援員の確保は重要な課題であると認識している。計画策定率が2割で推移している現状を変えるため、何ができるか、問題意識を持って検討したい。

参加者

市職員が土日や夜間に支援員として活動してはどうか。

市長

「地域に飛び出す公務員」を推進したいと考えている。市役所での業務に加え、PTAや消防団など地域の活動にもう一つの肩書を持って参加することで、地域の実情を理解することにつながる。「地域に飛び出す公務員を応援する首長連合」への参加を考えている。職員が地域活動に参加するような雰囲気を作っていきたい。

参加者

災害時に備えて近隣住民と良い関係を作っていくとの説明があったが、関係性作りは簡単ではない。市からの関係性作りの活動に対する支援や啓蒙などがあると良い。

災害時に避難所が避難者で溢れた場合はどうすればよいか。

液状化は対策を行っても繰り返すと考えているが、見解を示してほしい。

瑞龍寺裏の増水対策として加賀藩が庄川町に作った堤防「松川除」をハザードマップでも紹介してはどうか。

市長

関係性作りに係る活動に対して補助を出すことで良い関係が作れるとは限らず、難しい問題である。

避難所の不足に対しては、届出避難所登録制度を設けており、市が民間施設に対して避難所としての利用を働きかける事も行っていく。

液状化は繰り返す可能性が高く、根本的な解決は難しい。

「松川除」については、改めて勉強し、今後の参考にさせていただきたい。

参加者

下関地区には、下関小学校、芳野中学校、下関公民館、県立武道館の4か所の避難所があるが、庄川に近い地域から小・中学校まで避難する場合は徒歩で20分ほど要し、庄川に近い高岡エクールは届出避難所になっている。下関公民館は築50年以上が経過し、トイレも古く能登半島地震の際は避難所開設できなかった。小・中学校は授業時期になると避難所として使用できなくなる問題もある。県立武道館も平屋なので避難所機能として成り立たない。

市長

人口規模などを考慮すると、避難所のあり方について改めて検討する必要があると認識した。

参加者

要支援者の避難について、地域包括支援センターや訪問看護ステーションは、日頃から在宅の要支援者を把握している。これらの機関に具体的な支援案の作成を依頼するなど、連携は行われているのか。

社会福祉課

今年度から地域包括支援センター等と契約を結び、避難行動要支援者名簿の作成に協力いただいている。今後は、個別避難計画の作成においても、これらの事業所に対応をお願いしていくことになる。

参加者

現場で要支援者に直接携わっているのは、地域包括支援センターや訪問看護ステーションの職員である。現場が何に困っているのか、どうすれば良いと考えているのか、意見を吸い上げる形で進めるべきではないか。

社会福祉課

高岡市医師会と福祉保健部で在宅医療の協議会を設けており、その中で、専門職も交えて様々な課題について意見をいただきながら進めている。

3 意見交換

「高岡市人口ピラミッド」を基に、市長より説明の後、意見交換

参加者

新高岡駅と高岡駅間の新たな交通手段の構想はあるか。また、地域交通についての今後の施策はあるか。

参加者

高岡駅と新高岡駅間の動線に関して市の新たな構想はあるか。鉄道、バスそれぞれについて市の考えを伺いたい。また、ICカードと定期券のどちらを利用するのが良いのか疑問である。

市長

ICカード導入により利便性が向上したと考えている。公共交通に関しては、交通事業者協力体制を築く方向で協議を進めている。将来的には、市が路線計画を立て事業者運行を委託するような形を目指したい。

高岡駅と新高岡駅間に自動運転を導入できれば、運転手不足の解消につながり運行本数を増やせる可能性がある。自動車メーカーも協力的であり、実証実験を進めていきたい。この2駅間の連携が強化されれば、まちの風景は大きく変わると期待している。

参加者

新高岡駅南口から二塚方面へ向かう中央分離帯のある直線道路を活用し、自動運転バスの実証実験を行ってはどうか。

市長

その道路は直線で見通しが良いため自動運転に適している可能性がある。ロープウェイを設置するというアイデアもあるが、まだ先の話である。

参加者

自動運転については、既にレールが敷設されている万葉線で導入する方が容易ではないか。

市長

万葉線の自動運転化も一つの可能性である。また、万葉線と氷見線・城端線の軌道幅は同じであり、技術的には高岡駅で線路を接続し、相互乗り入れが可能だと聞いている。

参加者

万葉線が高岡駅に乗り入れた当初から、将来的に氷見線・城端線と接続する計画があったのではないかと感じていた。技術的に解決は難しくないのではないか。

参加者

国宝瑞龍寺から前田利長公墓所へ続く八丁道がある。前田利長公墓所の公園について、柵の破損や堀に溜まった汚泥の除去など、景観を整備してほしい。

市長

前田家ゆかりの地として、高岡古城公園などと一体で整備していきたいと考えている。

参加者

下関地域交流センターについては、施設の老朽化や避難経路の心配がある。トイレの改修、駐車場の拡充、調理施設の設置など施設の充実を検討してほしい。

過去に地域でひとり暮らし高齢者へお弁当を届ける事業を行っていた際は、JA 高岡東部地区センターの調理場を借りていた。地域で子ども食堂を開きたいが JA 高岡は補助金の関係もあり一般開放できないと言われている。公民館法での改修や建て替えしか方法が無いと聞いている。下関地区は固定資産税や法人税、住民税など多くを市に納税しているため、もっと目を向けてほしい。

京田・舘川町交差点は融雪装置がなく、積雪時に交通が滞るため何かしらの対策を。

参加者

ダイエー跡地の活用について、県西部に設置予定の中高一貫校を誘致してはどうか。高岡駅から徒歩1分という立地は、県内から優秀な学生が集まると期待できる。

下関公民館の建て替えの話に関連して、旧ダイエー跡地への移設が難しいのであれば、廃止予定の県営武道館の跡地を取得し、そこに駅南地区のコミュニティセンターのような施設を整備してほしい。

市長

県営武道館跡地の活用は現時点で何も考えていない。ダイエー跡地について、学校の建

設は有効な活用法の一つであると考えている。

参加者

高岡スポーツコアに武道館や総合体育館を設置する案や竹平記念体育館のサブアリーナ構想など、様々な話が出ては消えているが、総合的にどうすべきと考えているか。

市長

もう少し時間をいただきたい。先送りはせず、白黒はっきりつけたい。市民に納得してもらえるよう説明し、共感を得ながら進めていかなければならないと考えている。

参加者

ダイエー跡地が低料金の駐車場になった影響で、周辺の駐車場経営で生計を立てている人の収入が半減し、生活が苦しくなった人もいる。(土地の売却など) 道筋がつくよう土地の価値を上げるようにしてほしい。市の対応が先延ばしにされると、周辺住民は苦しいままである。

市長

指摘はごもつともである。下関地区や駅南は市にとって非常に大切であり、市を牽引している地域と認識している。いただいた意見は市役所全体で共有し、市を少しでも良くするための一歩につなげていきたい。

参加者

市長室に市民を呼び、市長との対話の場を設けるようなことを考えては。

市長

今後も「まちかどトーク」として、現場に出向いて多くの人の話を聞きたいと考えている。